

東洋突板工芸(株)

代表取締役社長 大関一宏さん

東洋突板工芸(株)が力を入れておられる製品がある。それはテナージュ。

テナージュとはなんの事だろ？それは、日米で特許を得ている新素材、つまり天然木自在シートの事である。

その新素材は、ツキ板を使用しているにもかかわらず、折り曲げても割れず、縫製加工も可能という優れもの。非常に柔軟でしかも強度がある。誤って洗濯してもOKだ。従来は廃棄していた端材を使うため環境にも良い。そして従来の天然木シートのように表面をフィルムやプラスチックで覆つていないので、天然木が持つ暖かい質感を十分に楽しめるのだ。

大関さんは「いろいろな種類のツキ板に応用できます。でも

今力を入れておられるのが、屋久杉を使つたテナージュ製品ですね。」と語る。事務所のディスプレイには、屋久杉のテナージュ製品が展示してある。鞄やセカンドバッグ、名刺入れ、財布である。

実際に魅力的である。“木の宝石”と称される、屋久杉製品を、自分だけの物にできるのだ。二つとして同じ木目の中にはないことから、全くのオリジナルの“木の宝石”を持ってゐるのだ。

テナージュとの出会いは、大関さんに粘り強い探求心から生まれた。何か新しい製品造りを探し求めていたのだ…。

「やがて、銀行の紹介で特許庁とのコネクションを得ました。そして特許庁から龍谷大学

と大阪の企業“ゼロワンプロダクト”を紹介されたんです。それがテナージュとの出会いとなりました。テナージュは産業官連携で生まれた製品で、龍谷大学工学部と“ゼロワンプロダクト”が関わっていたのです。すぐさまその製造ライセンスを取得しました。」

聖書の言葉に「求め続け下さい。そうすれば与えられます。」とあるが、まさにそれを地にくパターンだ。粘り強い探求心が新しい製品との出会いにつながった。

東洋突板工芸(株)が販売する屋久杉を使ったテナージュは、自社Web Siteでも販売している。ちなみにwww.toyosukuita.jp/である。十個からオリジナルの注文ができる

るそうだ。また東急ハンズなどのショッピングでも販売している。

さらに今発展的な製品、“木織テナージュ”にも関わっており。これは、テナージュを用いた、世界初の天然木織物



天然木自在シート「テナージュ」は日本と米国で特許認定されています。

天然木自在シート 特許取得



天然木自在シート
「テナージュ」は、2004年3月
に日本で特許認定されました。

発明の名称:天然木自在シート
特許第3536048
特許確定日:2004年3月19日



天然木自在シート
特許取得
(Flexible Natural Wood Sheet)米国特許取得

天然木自在シート
「テナージュ」は、2005年8月
にアメリカ合衆国で特許認定
されました。

United States Patent
Patent No. US 6,936,351 B2
Date of Patent : Aug. 30,2005
[Flexible Natural Wood Sheet]

粘り強い探求心が 新しい製品との 出会いにつながつた



木織テナージュ



である。テナージュを幅二ミリにスリット(裁断)したもので縦糸として使用する製品である。広幅の織物が自動で素早くエンドレスに量産が可能である。しかも厳選された黒檀と京都西陣織の名工による織機技術で、美しい色合いと木目と、何とも言えない風合いを醸し出している。事務所には黒檀鞄がディスプレイされている。天然木の魅力と織物の芸術性が融合した美しい製品だ。東洋突板工芸(株)では、この木織テナージュ

作りも行っている。大関さんはこうしたテナージュ製品の躍進を期待している。大関さんは、地元大川の振興に向けたボランティアにも積極的に関わっている。現在しんきんニューリーダーズクラブの会長を務める。六十八社の地元企業が参加する。「四月二十三日には、大川元気づくりプロジェクト」の第一回会議を行います。新素材、新商品開発、販売の新分野開発を模索します。経済産業省のバック

アップで資金や情報提供を受けることになっています。大川の一つの起爆剤になればと考えていますね。」そして、こう付け加える。「次の時代を担う子供達の為に、今を生きる者の責任として、この大川を何としても再生したいですね。誇りを持てる市に再生したい。」

大関さんは、本業に、そしてボランティアに、持ち前の行動力を發揮し続けてもらいたいと思う。

屋久杉を使ったテナージュ製品